

「目で聴くテレビは放送開始から今日まで継続して緊急災害時のリアルタイム手話放送に取り組んでいます

1995年の阪神・淡路大震災では、手話ニュースが4日間ストップし、テレビには手話も字幕もなく、きこえない人・きこえにくい人にガスタンク爆発の危険の避難勧告も伝わりませんでした。聴覚障害者の緊急災害時情報保障は、阪神淡路大震災を契機に設立された当機構の原点です。2024年元日の能登半島地震でも当日の手話ニュースはストップし、きこえない人・きこえにくい人は避難所で情報を得ることができず、孤立しました。2024年8月8日に南海トラフ地震臨時情報(巨大地震注意)が出されたように、大災害の危険が迫っている今、この取り組みの社会的意義と役割はますます重要となっています。

能登半島地震リアルタイム手話緊急災害放送の様子



2025年6月25日「手話に関する施策の推進に関する法律」が施行されました

「手話に関する施策の推進に関する法律」が施行され、地域における生活環境の整備等(第10条)では、「災害等の非常事態が発生し、又は発生するおそれがある場合に安全を確保するための手話による情報提供」と定められています。

「アイ・ドラゴン4」は、きこえない・きこえにくい方の日常生活用具としてご利用いただけることはもちろん、緊急災害時にはすべての人に必要な情報を届ける情報アクセシビリティ対応機器です。引き続き、ご当地の市町村に、聴覚障害者災害救援中央本部・貴協会・障害者放送通信機構連名の「アイ・ドラゴン4設置要望書」を提出してください。

「アイ・ドラゴン4」の機能

- 災害時に手話言語で緊急災害放送を見る
- 「目で聴くテレビ」が収集した災害時情報をオリジナル番組で見る
(全国の聴覚障害者情報提供施設と協力)
- 「リアルタイム手話・字幕放送」を見る
(情報通信研究機構(NICT)助成事業)
- **2,500本超**の手話番組アーカイブを
24時間いつでも見られる



認定特定非営利活動法人
障害者放送通信機構は、
文化庁からリアルタイム
字幕配信事業者の指定を
受けています。

聴覚障害者用情報受信装置
「アイ・ドラゴン4」(日常生活用具)

障害者放送通信機構は、全国の都道府県・市町村にに対して福祉避難所で「アイ・ドラゴン4」を活用し、「防災体験会」を定期的に開いていただくよう要望しています。

防災体験会の例

- 個別避難計画(マイ・タイムライン)の作成
- 万一の場合に自分と家族が行くべき避難所の確認
- 自分が助けることができる人と一緒に避難できる人は誰かについて話し合う
- 非常時持ち出しリュックの中身を披露し合う
- 停電時にスマホを充電する方法を学ぶ
- 「アイ・ドラゴン4」で「目で聴くテレビ」の防災動画を見て基本的な防災減災の知識を得る

ご支援のお願い＝＝贊助会員になって「目で聴くテレビ」を応援してください＝＝

緊急災害時のリアルタイム手話放送をおこなうためには、放送1回あたり15万円の費用がかかります。

国の助成金では半額しかまかなうことができず事業の継続が困難になっています。

どうか皆様のご支援をお願い申し上げます。

●贊助会員会費は1口3,000円です。何口でもかまいません。お申込は、ご住所・お名前・贊助会員申込と書いてFAXしてください⇒06-6242-6502

●贊助会費の振込先 ゆうちょ銀行〇九九店 当座預金 0117922 障害者放送通信機構